

シティセールスにぎわいプロジェクト

自治体情報 栃木県足利市

人口 / 153,926人 標準財政規模 / 29,822百万円

- 担当課** 政策推進部企画政策課
- 電話番号** 直通 0284-20-2103
- 実施主体** 足利市
- 関連ホームページ** <http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/page/grand-plan2.html>
- 事業期間** 平成23年度から平成27年度まで
- 関係施策分類** ①、②、③、⑥

予算関連データ

総事業費：53,220千円

名称	所管	金額(千円)
史跡等総合整備活用推進事業費	文化庁	10,500
一般財源	-	42,720

施策のポイント

日本最古の孔子廟のある史跡足利学校での「論語素読体験」や里山の魅力を活かした体験プログラムを行う「足利・名草ふるさと自然塾」など、本市が持つ地域資源を活用した独自性のある体験を提供したことにより、交流人口やまちの魅力拡大につながった。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

シティセールスにぎわいプロジェクトは第6次足利市総合計画後期基本計画の策定に際し、重要なプロジェクトの一つに位置付けたものであり、観光客の増加やまちの魅力アピールなどの目的を掲げている。

目的設定の背景には、本市が首都圏から80km圏内にあり、気軽に訪問できる半面、観光スタイルが「日帰り・短時間滞在」になりやすいという地理的要因などが挙げられる。

そのため、滞在時間増や満足度向上を目指すことがまちの魅力や経済波及効果の拡大につながるという結論となり、自治体からの一方的な情報発信とは異なった「体験」や「学習」による双方向の交流を推進することとした。

2. 取組の具体的内容

本市では「史跡足利学校」で当時学ばれていた儒教の教えを体験できる「論語素読体験」や、里山の魅力を生かした体験プログラムを行う「足利・名草ふるさと自然塾事業」など、地域資源を活用した「体験型プログラム」を中心とした事業を展開している。

これらの取組は来訪者に対し「見る」だけの観光から「見て、体験して、感じる」足利オリジナルの思い出を提供し、来訪者の満足度向上を目指している。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

本プロジェクトでは複数の目標を設定しており、その一つに年間観光入込客数の増加として182千人の増加を目指している。

また、効果としてまちのにぎわいや経済波及効果などが考えられるが、観光における平均消費額は一人16,000円という統計が観光庁より報告されていることから、目標達成により2,912百万円の効果が想定される。

4. 現在までの実績・成果

PRにも力を入れた結果、観光入込客数が目標の倍以上で増加している点や来訪者に対するアンケートにおいて、満足度が向上していることなどからも、効果が着実に表れているものと思われる。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

事業を行う際、いかにターゲットに魅力を伝えるかという点は大きな課題であると同時にポイントともなる。

本市では新たな手法でPRを実施し、『ここでしかできない、味わえない体験』を意識したPRを行うことで、「実際に足利を訪れなければ味わえない感動」を想起させ、多くの観光客の誘致やまちの魅力をアピールしている。ターゲットの選定についても本市を通る鉄道や高速道路沿線の小中学校に遠足や修学旅行先としてPRした結果、多くの修学旅行や遠足の受け入れにつながっている。

6. 今後の課題と展開

「体験型プログラム」などの取組により一定の効果が出ているものの、依然として「日帰り・短時間滞在」という観光スタイルが本市の主流となっている。そのため、今後は低価格で宿泊可能な施設の整備など、更なる展開を進めることで、従来と異なる観光スタイルを広く提案する必要がある。

宿泊型の観光スタイルが浸透した際の経済波及効果として、前述した観光における平均消費額を参考とすると、日帰り観光における消費額の3倍強の52,000円となる。また、単に観光客1人当たりの経済波及効果を増やすだけでなく、新規ターゲットの開拓や従来のターゲットへの選択肢提供といった多くの機会創出も発生することとなる。

また、現在PRや企画段階において鉄道事業者との協力も進めており、市の予算を使わずに民間のノウハウを活用したPRや来訪者の増加といった効果が表れている。

今後もこれらの取組を契機とした更なるまちの魅力や創富力の向上に取り組んでいきたい。